

『御恩に感謝』

古田 義憲

先日、あるテレビ番組で写真家が、「自然を撮影する時に、自然を見てやろう、撮ってやろうという横柄な態度ではなく、人間中心の考え方を捨てて自然と接する事が大切だ」と話しておられました。私たちは、太陽、大地、空気、水の恩恵を受けている事に感謝するどころか、人間の身勝手な欲望を満たすために、土壌、大気、地下水、河川、海を汚染して、その環境破壊によって、動植物、魚介などの生態系に異変を生じさせています。私たちがいつも口にしてる食べ物は、肉、魚、野菜、果物、どれも命のあるものばかりなのです。それらの命あるものをいただいているということに対して恥じ入る気持ちと、生かされているという感謝の心を持たないわけにはいきません。これは人との間にも同じことが言えるのではないのでしょうか。人間は誰でも一人で生きていくことができません。必ず、誰かのおかげ、助け、支え、つまり『御恩』によって今まで生きてこられたのです。しかし、私たちは普段何気なく当たり前のように受けている「御恩」によって生かされている事になかなか気づかないのです。その『御恩』に気づかないという事が私達人間の愚かさなのです。私達が「御恩」に気づくことができないのは、いつも自分のことしか考えず、自己中心に生きているからなのです。自然、食物、人との「御恩」の中で生かされ、それらの御恩に気づいた時、本当の自分の姿に出会うことができるのです。御恩に感謝し、和を結び、共存することによって、お浄土の世界が見えてくるのではないのでしょうか。